

田んぼの 生きもの調査



" TANBO NO IKIMONO CHŌSA "

平成14年6月19日

宮城教育大学フレンドシップ事業

古くから農業の営みの中で形づくられてきた水田や水路、ため池、里山などは、今では農村の自然環境の重要な要素となっています。

「田んぼの学校」は、これらを遊びと学びの場として活用することにより、農村の持つ多面的な機能を通して、環境に対する豊かな感性と見識を持つ人を養成していくことをねらいとしています。今回の田んぼの生きもの調査では、田んぼにいるトンボなどの水生昆虫、カエル、ミジンコなどの生きもの調査をして、どんな生きものがどれだけ田んぼにいるか数えてみます。

子供たちは…のびのび遊ぶ。むらの自然と生活に触れ感性を育む。

大人たちは…子供と共に遊び、学ぶ。自然への感性を取り戻す。

むらの人は…むらの生活に誇りを持つ。農業やむらのこれからを考える。

まちの人は…むらのすばらしさを知る。農業や農村の大切さを理解する。

主催； 宮城教育大学環境教育実践研究センター
社団法人農村環境整備センター

日時； 平成14年6月22日（土）
9:30 田尻公民館集合（車で北小牛田まで移動します）

10:00～12:00 生きもの調査

12:30 田尻公民館解散（北小牛田から車で公民館まで移動します）

募集対象； 田尻町内の小中学生（15名）

* 当日は，宮城教育大学の学生も参加します。

講師； 岩淵 成紀（田尻高校教諭）

見上 一幸（宮城教育大学環境教育実践研究センター長）

持ち物；

雨具，ボールペン（首からつるすと良い），長靴（田んぼに入れるように田植え用のもの。なお，裸足でも調査ができます），ぼうし，飲み物，着替え，その他
昼食前に解散しますのでお弁当はいりません。

* 網やバケツなど，そのほかの持ち物は主催者側で準備します。

その他，

当日は，東日本放送テレビの取材も入ります（作家の立松和平さんとお話する機会もあるかもしれません）。



あつまれあつまれ!